

# 医療的支援が必要な子どもたちを地域で迎え入れる準備をしよう!!

## —モデル人形を活用した研修会の開催—

渡邊 理恵 ●久留米大学 医学部 看護学科 講師



吸引指導

- ①頸部の可動域を確保し、頸部の支え方・抱っこの仕方の練習ができる。
- ②カニューレ部を可視化することで、管理やケアの根拠について理解しやすい。
- ③軽量で携帯性が高く、持ち運びが可能となり、様々な場所で繰り返し練習ができる。
- ④現在実施している管理・ケアの技術項目を多く経験できるような素材・機能とした。

### 1. 背景と目的

#### 1) 医療的ケア児の地域における支援者の不足

2016年厚生労働省は、全国に医療的ケア児の地域支援促進について発信しており、様々な研修会は行われるようになった。しかし、実践的支援につながるような技術習得を目指した小児医療的ケア児の研修会は少ない。医療的ケア児の地域での受け入れ側の体制やマンパワーの不足により、退院移行が促進できず、家族だけが介護・子育てを背負い込んでいる現状がある。

#### 2) 地域で迎える実践的研修会の必要性

医療的ケアの中でも特に、生命に直結する気管切開・人工呼吸器の管理に関しては、訪問看護師も難しさを感じて受け入れを躊躇している状況が散見される。つまり管理・ケアの方法や注意点の根拠が理解でき、繰り返し練習のできるモデル人形を活用して実践力を養う必要性が高いと言える。このモデル人形は、2019年貴財団の助成を受けて、これまでの課題を抽出した結果に基づき、以下の内容を教育効果の期待として作成したものである。

### 2. 取り組みの方法

- ①モデル人形の追加制作を行う。
  - ②指導や練習の教材として活用する。
  - A: Zoomもしくは対面にてモデル人形をそれぞれの手元に置き、活用方法について研修会の実施(講義)。
  - B: 研修会后、モデル人形を活用して希望者は繰り返しの練習を行えるようにする。
  - C: 研修会の参加者の感想を募る。
- \*貸出期間は1~2カ月とする。

### 3. 期待される成果

- ①研修会にてモデル人形を活用することで、手技の根拠の理解を深め、安全に安心して小児の気管切開の管理・ケアに携われる人材の育成ができる。
- ②繰り返し練習できることで、1回の研修会のみ知識で終わらず実践者の育成が可能となる。
- ③モデル人形という一つの教材を介して、手を携えて学び合う仲間としての、質の高い連携が生まれる機会となる。